「あっ、旦那様！」

「ええ、ご安心ください。
この方はただの旧友ですから。
あなたに巡り合うまで、あのような事は
誰ともしたことはありませんよ」

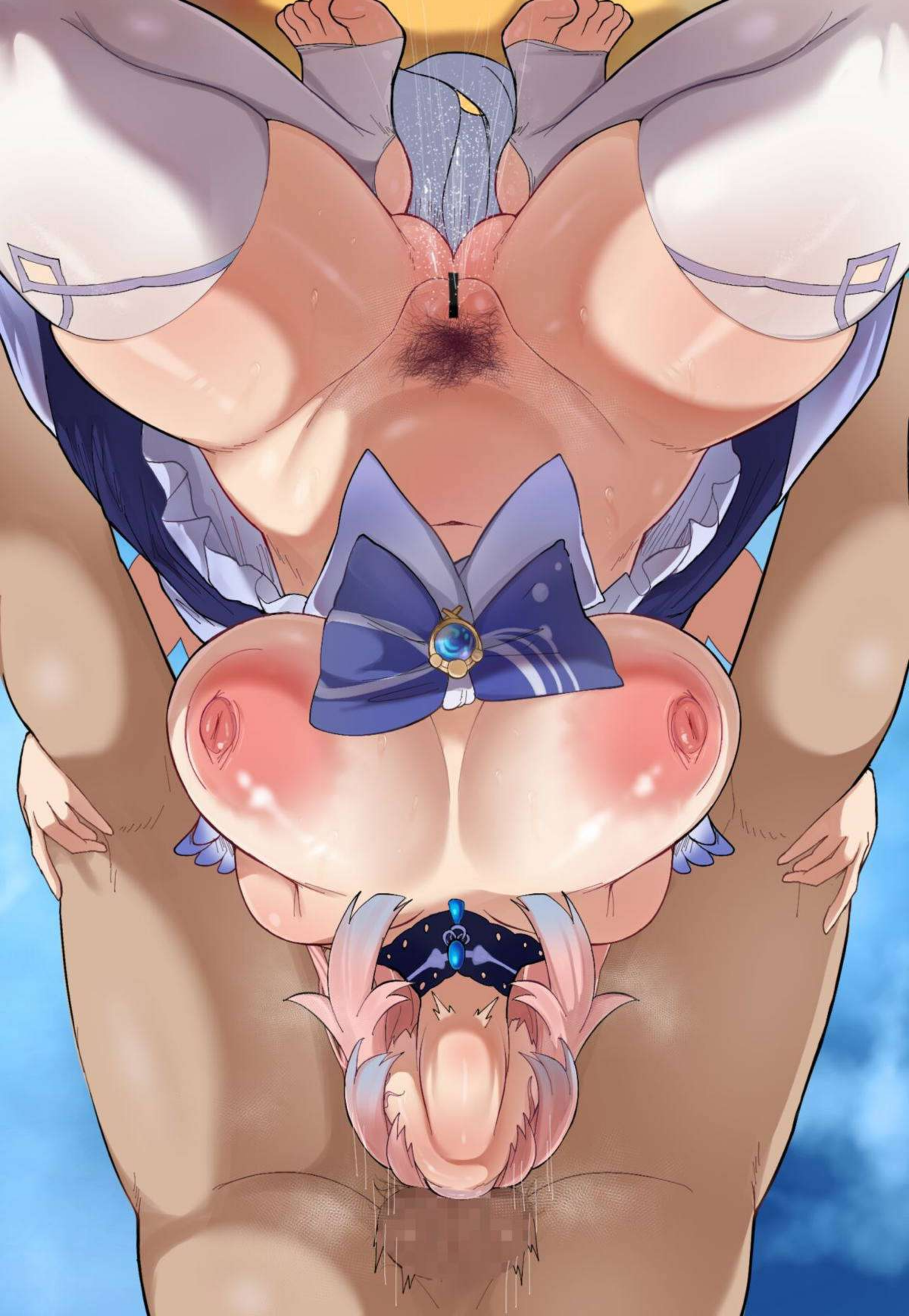
「…え？ですが…分かりました。
旦那様が言うのなら…」

「どこかで待っていただこうかと思ったのですが、
旦那様が私たちの日課を見せたいとのことで…」

むちぃ♥

むちっ♥

ビキッ
ビキッ
ドキ
ドキ
ふーっ
ふーっ…
旅人さん…。
貴方のものを硬くするつもりはなかったのですが…ごめんなさい。
私の身体は旦那様専用なのです。
ですが…自慰なら、していただいて結構ですからね」
「こんなあられもない姿をお見せしてしまい、すみません…。
ですが、喉奥を旦那様の勃起おちんぽで犯していただくには、致し方ないことなのです」
「ええ、日課ですから、毎日していますよ。旦那様いわく、男性の性欲を毎日解消するのは愛人の使命ですから」
ぬちょ…
ビキッ
ビキッ



んぶっ、ごっ、んぐっ…

（やばぁ…♥ おちんぽ、ベッタベタになっちゃいました…♥ こんなおちんぽ、奴隷にならないなんて絶対無理ですッ♥♥）

ぢゅぽ♪

ぢゅぽ♪

ふ――♡

ふ――っ♡

ぢゅぽッ♡

ぶるッ♥

うぐっ♥♥ んぶっ♥♥ んぐっ♥♥

（射精してっ♥!! 肉便器奴隷の口、旦那様の精子で満たしてくださいっ♥ 射精して♥ 射精して♥ 射精してっ♥♥）

ぶるんっ♥

ぶるッ♥

ビュー
ビュるーっ♥
んぶッ♥んぐっ♥あがっ…♥
んあぁ…!!♥イクッ♥イっちゃうぅ…っ!!♥♥
あうぅ…っ♥♥
キモチよかったぁ…っ♥♥
私、完全に…おちんぽ奴隷に堕とされちゃってます…♥♥
プシィー

「んぐぅッ…ごきゅっ…ぐきゅッ……♥
はぁ…はぁ…っ…旅人さん…お見苦しいところを
お見せしてしまい、すみません…」

ふー♥

へー♥

へー♥

ビクッ

「でも、旦那様のつよつよおちんぽは
まだ収まっていないみたいですね…♥
仕方ありません♥」

「私のキツキツおまんこを
犯して、もっとびゅっびゅしないといけませんね♥」

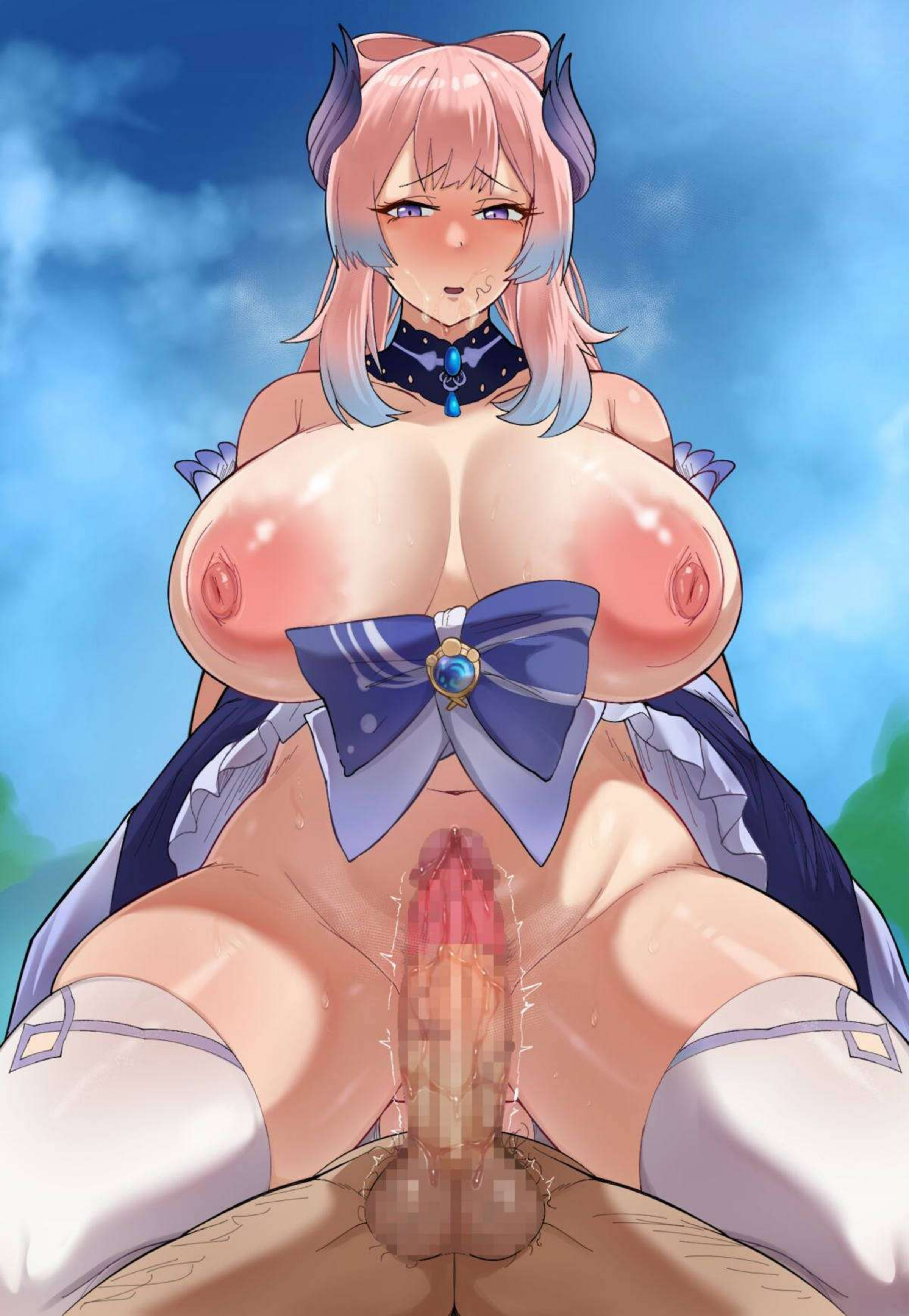
ビクッ

ビクッ

ビキッ

ソロ～ト

どろぉ…



「今すぐに、私のおまんこで静めてあげますから、一滴残らず搾り取ってあげます♥♥

あぁ、私のおまんこもヌルヌルで、いつでもおちんぽをグポグポする準備、できちゃってます♥♥」

ん…う♥

こ、こッ♥

「ほら、旅人さん…♥もっと近寄ってください♥今日はとっても貴重な、生中出しですからね♥」

「私の巫女まんこがこのおちんぽのつよつよ子種（ザーメン）でいっぱいにされちゃうところ、見ててください♥♥」

ぬち…♥

ビュルーッ♥
ビューッ♥
「絶対妊娠したぁ♥危険日中出しセックスで受精してるの感じる…っ♥♥♥」
おぉ…オッ…
ビクン
イグッ♥イグッ♥イグゥ〜〜ッ♥
「イくっ♥またイっちゃいますっ♥子宮に中出しされてイっちゃうぅっ♥♥♥
はぁ、はぁ…あつ、熱い…♥♥もう2回目なのに、すっごい量です…♥」
ビクン
ビクン
ニュ
ニュ

「お掃除させていただきますっ♥
どうぞこちらへ…♥…いただきまぁす♥」

「…んぇ？もっとしたい？…
仕方ありませんね♥旅人さんに少しご挨拶したら、
私たちの愛の巣へ戻って続きをしましょうか♥」

れろ～

れろ～

べろ～

ぢゅるッ

ぢゅるッ

ぐっちょお…♥

ビキッ

ビキッ

ビクッ

「すみません、旅人さん。
旦那様が続きをしたいそうなので、
また次の機会にお話しましょう…ね？」

「少しお待たせてしまいましたが…
お楽しみいただけましたか？
それでは、またいつか…♥」

ビクッ

ビクッ

「今日はアブない日ッ♥
だからぁ♥絶対
孕まされちゃいますぅぅ♥♥♥♥♥♥♥♥ッ!!

パン♥
パン♥
パン♥

私の中出し懇願ま◎こッ♥
精液でいっぱいにされちゃいますッッ♥♥♥♥♥!」

「あぁあッ…♥イクっ!!♥またイクぅッ!!♥♥
んほぉお…♥♥旦那様の太くて、長ぁいおち○ぽにッ♥
私がただの雌だって、
完全に解らせられちゃいましたぁッ♥♥

またイグッ♥♥
イグイグ♥
おぉ♥
イグぅぅ♥♥

私のおま○この形ッ♥
完全に変えられちゃったぁッ♥♥」

3時間が経過し…

おほぉ♥

んっ♥

おオッ♥

「一生旦那様のモノになるっ♥♥
旦那様のレ○プグッズになりますぅッ♥
おほぉ…ッ♥

どぴゅる♥

びゅる

子宮ッブしてッ♥
好きなだけ種付けしてくださいッ♥♥」

使女
オナオ
中出OK
好き!

数か月後

「あ…旦那様♥…まぁ♥
もうそんなにお○ポを硬くして
しまっているのですか…？♥」

「このような姿になっても
変わらず愛してくれるなんて…感激です♥」

「それでは早速…こちらへどうぞ、
旦那様♥ 私のク○ま○こで、存分にザーメンを
お出しください♥」

ボヨ～ン♥

「じゅぶぶ…♥んぅ…んむ…♥
このチ○ポ…好き…っ♥」
「じゅぶっ♥ジュルルッ♥♥
ここ最近、以前よりも興奮なさっているようですが…

ぢゅぽ♪
ぢゅぽ♪
ふ――♥
ふ――っ♥

ひょっとして、私が妊婦の身体になってきたからでしょうか？――図星でしたか…なら、仕方がありませんね♥」

「はぁ…はぁ…ッ♥お腹の赤ちゃんの事など、お構いなしに…
今までと変わらず、毎日欠かさず容赦のない
種付けをしてくださって…♥♥」

「赤ちゃんが通りやすくするため…？
まぁ、なんとお優しい♥」

ビクッ

ふっ♥
ふ～っ♥
フッ♥
フゥ～っ♥
ヘ～♥
ヘっ♥

「…はい♥ セックスのために、お部屋に行きましょうか♥」
「もう第三子や第四子をお考えになっているのですか…？♥
ふふ♥ いえ、とても嬉しくて…♥」

ビクッ

ビクッ